



校区の住民と一緒に作った神足小のグリーントンネル(上) / 環境の都づくり会議と長岡中央商店街振興組合が夏に開催する打ち水イベント(左下) / 西山ファミリー環境探検隊で川遊び(右下)



安全

地域の力が安全をつくる

東日本大震災によって浮き彫りになった新たな課題に対応するため、要配慮者や帰宅困難者への支援、避難所生活などに重点を置いた「地域防災計画」の見直しなど、防災体制の充実・強化に力を入れています。災害時に避難所となる小中学校については、耐震化を急ぐとともに、食糧や水などの物資の備蓄や、断水時にも使用できるマンホールトイレを整備しています。また、大雨による浸水被害を防ぐための京都府いろは呑龍トンネル雨水南幹線の整備計画に伴い、本市の浸水対策も進めていきます。

大災害の初期段階では地域住民の助け合いが力を発揮することから、自主防災組織を支援し、自主防災活動の活性化を図っています。また、市民生活を脅かす犯罪や事故などに対しても、防犯委員や自治会による地域安全パトロールなど、地域住民が主体となった自主防犯活動を支援し、犯罪のない安心・安全なまちづくりを進めています。



◀ 防災訓練で自治会住民が力を合わせてバケツリレー



◀ 消防署と消防団と市役所が合同で行う水防訓練



◀ 防犯パトロール

環境 いにしへ 古の都から “環境の都” へ

自然と共生する持続可能な社会を市民のみなさんと築いていくことをめざし、平成21年に「環境都市宣言」を行いました。これまでの生活様式を見直し、社会のあり方を考えるために、毎年多くの市民、企業、市民団体、行政などが協働で環境フェアを開催するなど、“環境の都”の実現をめざし事業を展開しています。

また、小学校では西山をフィールドとする環境学習を行うほか、親子で自然に親しむ機会として「西山ファミリー環境探検隊」などの事業を通して、次世代へ伝える取り組みも進めています。

▶ 地域子育て支援センター「エンゼル」(開田保育所内)で



明日のために、
笑顔のために。

For the future,
For your Smile.

健康 住み慣れた地域で暮らせる安心

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、保健・医療・福祉のネットワークを築いています。高齢福祉の分野では、介護予防や認知症予防の講座などの施策を進めています。介護事業所数は年々増加傾向にあり、特に認知症に対応した地域密着型サービスに重点を置き、質・量ともに充実を図っています。子育て支援の分野では、保育所(園)の誘致や定員数の増加などにより、待機児童対策に取り組んでいます。就学前の子育て親子が気軽に集まれる場として、子育て支援センターやつどいの広場などの支援事業にも力を入れています。また、障がい福祉の分野では、住み慣れた地域で自立した生活を送るためのサービス提供体制の確保や、就労・社会参加のための相談・支援体制の充実にも取り組んでいます。

私たちの健康を支える医療体制については、本市を含む京都・乙訓医療圏の人口10万人あたりの医療施設従事医師数が343.8人と、全国平均の206.3人を大きく上回り、大変充実しています。休日診療は、医師会の協力を得ながら内科・小児科は乙訓休日応急診療所で、外科は当番医制で、医師体制の確保に努めています。また、病気の早期発見や感染症予防のために、各種検(健)診や予防接種にも力を入れています。



▲ 中央公民館での「子育てふれあいルーム」
障がい者スポーツのつどいで卓球バレーを楽しむ参加者



▶ みんなでゲームを楽しみながらできる認知症予防講座



平成24年8月29日撮影

地域力 連携力

地域が活躍の場

地域コミュニティの核となるのは自治会です。市内には57の自治会があり、住民同士の親睦・交流や防災・防犯活動など、様々な活動に取り組んでいます。

その上で、より広い範囲で地域住民が支え合い、地域の課題解決や活性化につなげようと、小学校区を単位とした「地域コミュニティ協議会」を順次設立しています。校区内で活動する団体や個人が、顔の見える関係を築きながら、各校区で特色ある活動を展開しています。

また、ボランティア活動に参加する人も増えており、小学校のすくすく教室(放課後子ども教室)や、中学校の勉強や部活動を支援する学校支援地域本部事業など、退職後の世代を中心に地域住民の活躍の場が広がっています。

本市は全国でもいち早く、平成14年に「市民活動サポートセンター」を設置しました。環境や子育て支援、福祉、文化芸術活動などに取り組む市民活動団体が数多くあり、放置竹林整備や児童虐待防止などの各分野で、複数の団体がネットワークを組織する活動も広がってきています。また、配食やふれあいの居場所づくりなど、行政と協働する分野も着実に増えています。



▲長岡第四小の地域コミュニティ協議会で取り組んだ通学路の安全点検のワークショップ
▼環境分野で活動する市民団体が中心となり開催される長岡京竹あそび

議会

市民とともに歩む、開かれた議会へ

市議会は、選挙で選ばれた26人の市議会議員によって構成され、市長とともに二元代表制の一翼を担っています。年4回開かれる定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があり、市政の進め方をチェックしたり、市民の要望を伝えたり、政策を提案したりして、より良いまちにするための議論を行っています。

議会には、総務産業、建設水道、文教厚生 の3つの常任委員会と、議会運営委員会、特別委員会があります。特別委員会は、必要に応じて設置されるもので、現在は、まちづくり・公共交通対策、公共施設対策、環境対策の3つを設置しています。

また、平成24年3月には「議会基本条例」を制定し、市民とともに歩む開かれた議会をめざしています。



議長 上田正雄



副議長 大伴雅章

大伴 雅章	小谷 宗太郎	大畑 京子	尾崎 百合子	八木 浩	岩城 一夫	田村 義明	藤井 俊一	上田 正雄
祐野 恵	進藤 裕之	上村 真造	黒田 基	坪内 正人	富岡 浩史	浜野 利夫	野坂 京子	瀬川 光子
堤 淳太	高見 良一	福島 和人	大谷 厚子	西村 厚子	藤本 秀延	武山 彩子		



▲大勢の市民が集まる駅前広場コンサート
▼熱戦が繰り広げられる「若葉カップ」



文化力

大人、子ども、いきいき

文化の分野では、長岡京記念文化会館での「長岡京音楽祭」やJR長岡京駅前パンビオ広場公園での「駅前広場コンサート」など、“音楽のまち・長岡京”をめざし、様々なイベントを開いています。また、市民の生涯学習活動は、中央公民館や図書館、パンビオ、長岡京こらさなどを拠点に、活発に行われています。

スポーツの分野では、“いつでも、どこでも、だれでも”スポーツを楽しめるように、小学校区単位で「総合型地域スポーツクラブ」の設立を進めており、スポーツを通じた健康づくりと、地域の結び付きを強めています。また、毎年夏には、“小学生バドミントンの甲子園”ともいわれる「若葉カップ」を企業の協賛を得て開催し、全国の小学生が熱戦を繰り広げ交流しています。

市内には小学校10校と中学校4校があります。英語教育に力を入れており、小学校では必修化される10年以上前から取り組んでいます。また中学校では、国際理解教育として、市立中学校に通う生徒から参加者を募り、選ばれた16人を現地の人との交流や異文化体験を目的とし、姉妹都市の米国アーリントンに派遣しています。